

## 式 辞 (令和7年度 全日制)

二月に入り、緑色のスリッパを目にすることが少なくなり、いよいよ3年生が卒業することを実感すると同時に、一色高校全体も新しい年度に向けて動き始めています。そして、武道場脇にある春を彩るモクレンの花が、ここ数日で咲き始め、卒業生の門出を祝っていると感じられる季節となりました。

このような時に、愛知県立一色高等学校全日制課程第七十四回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより在校生、教職員にとりましても、大きな喜びであります。

また、大変御多用の中、御来賓として、PTA会長 猪塚悦子（いづか えつこ）様をはじめPTA役員の皆様、同窓会会長 高須 誠一（たかす せいいち）様に御臨席を賜りました。高いところからではございますが、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

ただ今卒業証書を授与しました生活デザイン科十八名、普通科八十八名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましては、お子様の御卒業誠におめでとうございます。教職員一同 心からお祝い申し上げます。

私は、校長という立場上、担任の先生や教科担任の先生、あるいは部活動の顧問の先生方と比べ、皆さんと関わる時間は限られていましたが、日々の学校生活の中で、皆さんはいつも気持ちのよい挨拶をしてくれたり、気さくに話しかけてくれたりしました。そのような中で、私にとって君たちとの大きな接点が学校行事でした。

この一年間で一番印象深いのは体育祭でのムカデリレーです。競技では青团の長下駄が壊れてしまい、他の団から大幅に遅れてしまうという事態になってしまいました。長下駄が直り、青团が競技を再開した時は、勿論、最下位での開始でした。最終コーナーに差しかかった時、他の団の生徒たちが青团の選手に近寄り、応援をしながらゴールまで後押しをしていきました。そして、ゴール付近は様々な色の団Tシャツが入り交じり生徒全体で青团のゴールを出迎えました。私

はその時の情景に感動し、動画をその後の西尾市内中学校での進学説明会で流し、「私たちの自慢の生徒です。」と紹介させてもらいました。説明会でそのような言葉を言えたことに感謝しております。ありがとうございます。君たちは本当に素晴らしい生徒です。

さて、今日、皆さんは高校生活の終わりを迎えました。しかし、これは同時に新しい始まりでもあります。ここで私が皆さんに贈りたい言葉があります。それは「これからが、これまでを決める」という言葉です。

一見、不思議な言葉に聞こえるかもしれませんが。「これまで」は過去、「これから」は未来。過去はもう変えられないのではないか。しかし、実はそうではありません。過去の意味は、未来の生き方によって変わるのです。

皆さんがこの三年間で積み重ねてきた努力や経験は、今の時点では「事実」として形を持っています。テストの点数、部活動の成績、友人との思い出など、それらは確かに過去の事実です。しかし、その事実がどんな価値を持つかは、これからの皆さんの歩み方によって決まります。

例えば、ある挑戦で上手くいかなかった経験があるとしみましょう。その事実を「自分にはできない証拠」としてしまえば、過去は重荷となります。しかし、その事実を「次に生かすための学び」として捉えれば、過去は未来を支える力に変わります。つまり、過去は固定されたものではなく、未来によって意味づけられ、変化していくものです。

これから皆さんは、就職や進学など、それぞれの道を歩み始めます。社会は予測できない変化に満ちています。AIやテクノロジーの進化、国際情勢の変化、環境問題など、どれも私たちに新しい問いを投げかけています。そんな時代に必要なのは、知識だけではありません。自分で考え、選び、行動する力です。そして、その力は、皆さんがこれまでに培ってきた経験から生まれます。

だからこそ、今日までの道のりを誇りに思ってください。しかし、同時に覚えていてほしいのは、その価値は、これからの生き方で決まるということです。「これからが、これまでを決める」この言葉を胸に、未来を切り拓き、西尾市、一色の地が更に発展していくための有為な人材に成長してくだ

さい。そして、母校一色高校を温かく見守ってください。

最後に、第七十四回卒業生の皆さんのこれからの人生が希望に満ちたものであることを心から願うとともに、御参会の皆様方の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、式辞といたします。

令和八年二月二十八日

愛知県立一色高等学校長 鈴木 静